

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育入門ゼミ						授業形態		演習	
科目コード	750112	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	渡邊 光浩								ICT活 用	○
授業概要	本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を習得することにある。 大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとするを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。 なお、前期は並行して開講される「アカデミックスキル」と往還しながら学習技術を高めていく。									
関連する科目	「アカデミックスキル」と往還しながら学びを深める 「子ども教育プレゼミ」を次年度に履修すること。									
授業の進め方 と方法	・入学前課題の発表により学びの課題を把握し、基礎的な読解を行った後に、ゼミごとに調査テーマを設定し、テーマにそって、文章表現（レポート作成）、情報収集、プレゼンテーションを行う。 ・「アカデミックスキル」と往還しながら、研究構造の理解、課題設定、調査、結果と考察、表現（プレゼンテーションと言語化）と学生が経験しながら段階的に学びを深めることを目指す。									
授業計画 【第1回】	第1回 学生生活1（個別ゼミ） オリエンテーション、学生生活指導、履修指導									
授業計画 【第2回】	第2回 学生生活2（個別ゼミ） 学生生活指導、履修指導									
授業計画 【第3回】	第3回 レポートとは（個別ゼミ） ①入学前課題レポートの共有 ②レポートを書く目的と構成									
授業計画 【第4回】	第4回 テーマ設定（個別ゼミ） ①探究（研究）課題の立て方									
授業計画 【第5回】	第5回 探究課題設定1（個別ゼミ） ①探究（研究）課題設定：ゼミのテーマに沿って自分の興味に基づいた自分の探究課題を設定 ②課題設定の理由（調べたい動機）を明確にし、文章にまとめて表現する									
授業計画 【第6回】	第6回 探究課題設定2（個別ゼミ） ①探究課題を設定した理由（主観から客観へ） ②探究課題に関する現状把握の方法：情報収集の戦略（適切なキーワードなど）、文献の決定									
授業計画 【第7回】	第7回 レポートの完成（全体ゼミ） ①レポートを発表する ②自身が作成したレポートについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。									
授業計画 【第8回】	第8回 学生生活3（個別ゼミ） 学生生活指導、履修指導									
授業計画 【第9回】	第9回 個別プレゼンテーション（個別ゼミ） ①ゼミメンバーに対してプレゼンテーションを発表する ②卒論中間発表会参加の準備：研究の背景、Research Question、方法の構成を理解する									
授業計画 【第10回】	第10回 卒業研究中間発表会 ①少なくとも三つのゼミの卒業研究中間発表会に参加し、各々の発表のResearch Questionを掴む。									

授業計画 【第11回】	第11回 ゼミ・プレゼンテーション1（個別ゼミ） ①ゼミメンバーのプレゼンテーションを集めてストーリーを構想する ②ストーリーをゼミのプレゼンテーションとしてまとめ、不足している情報をみつける
授業計画 【第12回】	第12回 ゼミ・プレゼンテーション2（個別ゼミ） ①不足している情報を加えてゼミのプレゼンテーションを完成させる ②発表の練習をする
授業計画 【第13回】	第13回 ゼミ・プレゼンテーション3（合同ゼミ） ①成果発表 共同プレゼンテーションを行う。 ②それぞれのプレゼンテーションを具体的事例として（自分のゼミのプレゼンも含む）、より良いプレゼンテーションについてまとめる
授業計画 【第14回】	第14回 ディスカッション（個別ゼミ） ①作成したレポートをもとにゼミ生とディスカッションをしながら、より良いプレゼンテーションについて考える。 ②①をもとにして、より良いプレゼンテーションにブラッシュアップする。
授業計画 【第15回】	第15回 1年次の学びの総括（個別ゼミ） 1年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	1. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
学位授与の方針 （DP）との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	（解説前）次回の解説範囲の資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 （実践指導前）提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外学習【復習】	（解説後）学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 （実践指導後）指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	（オリエンテーション等）提出物及び受講態度から判断する（30点） （解説）出席時のミニレポートや提出物から判断する（各回4点×5回＝20点） （実践指導）課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する（各回10点×5回＝50点）
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 学習技術研究会 編著「知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-（第5版）」 （くろしお出版、¥1800＋税） 2. 山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」 （山形大学出版会、¥800＋税） 3. 藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 衣食」た大学生生活を送るために」
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科				
科目名称	子ども教育入門ゼミ				授業形態	演習			
科目コード	750112	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	川田 耕太郎							ICT活 用	
授業概要	本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を得得することにある。 大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとするを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。								
関連する科目	子ども教育プレゼミを次年度に履修すること。								
授業の進め方 と方法	・入学前課題の発表により学びの課題を把握し、基礎的な読解を行った後に、ゼミごとに調査テーマを設定し、テーマにそって、文章表現（レポート作成）、情報収集、プレゼンテーションを行う。 ・基本的には、領域ごとに〔個別ゼミ〕→〔全体もしくは合同ゼミ〕（前半：各ゼミでの活動、後半：全体での解説や演習）の流れとし、学生が経験しながら学びを深めることを目指す。								
授業計画 【第1回】	第1回 学生生活1（個別ゼミ） オリエンテーション、学生生活指導、履修指導、入学前課題の発表								
授業計画 【第2回】	第2回 学生生活2（個別ゼミ） 入学前課題の発表								
授業計画 【第3回】	第3回 読解1（個別ゼミ） ①読解の意義について理解する。 ②専門的な文献（入門書レベル）の読解スキルについて理解する。								
授業計画 【第4回】	第4回 読解2（個別ゼミ） ①課題となった文献を要約し、発表する。 ②自身の文献の読み取りについて指導を受け、問題点と改善点を把握する。								
授業計画 【第5回】	第5回 文章表現1（個別ゼミ） ①アカデミック・ライティングの基本スキル、レポート作成手順と論文作法を理解する。 ②自身が作成したレポートについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。								
授業計画 【第6回】	第6回 文章表現2（全体ゼミ） ①アカデミック・ライティングの基本スキル、レポート作成手順と論文作法を再度確認する。 ②他のゼミの学生のレポートを検討しながら、より良いレポートについて議論する。								
授業計画 【第7回】	第7回 情報収集1（全体ゼミ） ①情報収集の必要性や資料の種類や分類について理解する。 ②大学図書館やインターネットを使った情報収集の基本スキルを理解する。								
授業計画 【第8回】	第8回 学生生活3（個別ゼミ） 学生生活指導、履修指導								
授業計画 【第9回】	第9回 情報収集2（個別ゼミ） ①他の学生の文献リストを検討しながら、より良い情報収集・整理について議論する。 ②課題となった文献リストの作成について指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。 ③プレゼンテーションのアウトラインを作成し、役割分担を行う。								
授業計画 【第10回】	第10回 卒業研究中間発表会 ①少なくとも三つのゼミの卒業研究中間発表会に参加し、各々の発表のResearch Questionを掴む。 ②他のゼミ生と感想を交流しながら、問題意識の醸成に向けた議論を行う。								

授業計画 【第11回】	第11回 プレゼンテーション1 ①プレゼンテーションの種類と特徴を知り、それらを作成する基本スキルを理解する。 ②自身が作成したプレゼンテーションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。 ③受けた指導をもとに、ゼミメンバーによる共同プレゼンテーションにまとめる。
授業計画 【第12回】	第12回 プレゼンテーション2 ①より良いプレゼンテーションについて考える。 ②共同プレゼンテーションを練る（推敲する）。【効果的なプレゼンテーションを目指して】
授業計画 【第13回】	第13回 プレゼンテーション3 ①ディスカッションに必要な態度・マナー及び生産性・創造性を高める基本スキルを理解する。 ②共同プレゼンテーションを練る（推敲する）。【議論ができるプレゼンテーションを目指して】
授業計画 【第14回】	第14回 ディスカッション ①成果発表 共同プレゼンテーションを行う。 ②他のゼミ生と互いのプレゼンテーション・ディスカッションを検討しながら、より良いプレゼンテーション・ディスカッションについて議論する。
授業計画 【第15回】	第15回 1年次の学びの総括 1年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	1. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	(解説前) 次回の解説範囲の資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外学習【復習】	(解説後) 学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 学習技術研究会 編著「知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-(第5版)」 (くろしお出版、¥1800+税) 2. 山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」 (山形大学出版会、¥800+税) 3. 藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 衣食」た大学生生活を送るために」
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育入門ゼミ						授業形態		演習	
科目コード	750112	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	河野 康男								ICT活 用	
授業概要	本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を習得することにある。 大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとするを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。									
関連する科目	子ども教育プレゼミを次年度に履修すること。									
授業の進め方 と方法	・入学前課題の発表により学びの課題を把握し、基礎的な読解を行った後に、ゼミごとに調査テーマを設定し、テーマにそって、文章表現（レポート作成）、情報収集、プレゼンテーションを行う。 ・基本的には、領域ごとに〔個別ゼミ〕→〔全体もしくは合同ゼミ〕（前半：各ゼミでの活動、後半：全体での解説や演習）の流れとし、学生が経験しながら学びを深めることを目指す。									
授業計画 【第1回】	1. 学生生活 オリエンテーション、学生生活指導、履修指導									
授業計画 【第2回】	2. 学生生活 入学前課題レポートをもとにしたディスカッション									
授業計画 【第3回】	3. 読解 ①読解の意義について理解する。 ②専門的な文献（入門書レベル）の読解スキルについて理解する。									
授業計画 【第4回】	4. 読解 ①課題となった文献を要約し、発表する。 ②自身の文献の読み取りについて指導を受け、問題点と改善点を把握する。									
授業計画 【第5回】	5. 文章表現 ①アカデミック・ライティングの基本スキル、レポート作成手順と論文作法を理解する。 ②自身が作成したレポートについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。									
授業計画 【第6回】	6. 文章表現 ①アカデミック・ライティングの基本スキル、レポート作成手順と論文作法を再度確認する。 ②他のゼミの学生のレポートを検討しながら、より良いレポートについて議論する。									
授業計画 【第7回】	7. 情報収集 ①情報収集の必要性や資料の種類や分類について理解する。 ②大学図書館やインターネットを使った情報収集の基本スキルを理解する。									
授業計画 【第8回】	8. 学生生活 学生生活指導、履修指導									
授業計画 【第9回】	9. 情報収集 ①他の学生の文献リストを検討しながら、より良い情報収集・整理について議論する。 ②課題となった文献リストの作成について指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。 ③プレゼンテーションのアウトラインを作成し、役割分担を行う。									
授業計画 【第10回】	10. 卒業中間発表会 ①少なくとも三つのゼミの卒業研究中間発表会に参加し、各々の発表のResearch Questionを掴む。 ②他のゼミ生と感想を交流しながら、問題意識の醸成に向けた議論を行う。									

授業計画 【第11回】	11. プレゼンテーション ①プレゼンテーションの種類と特徴を知り、それらを作成する基本スキルを理解する。 ②自身が作成したプレゼンテーションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。 ③受けた指導をもとに、ゼミで一つのプレゼンテーションにまとめる。
授業計画 【第12回】	12. プレゼンテーション ①成果発表(1) ゼミプレゼンテーションを行う。 ②他のゼミのプレゼンテーションを検討しながら、より良いプレゼンテーションについて議論する。 ③発表内容について、質疑応答を行う。
授業計画 【第13回】	13. ディスカッション ①ディスカッションテーマと論点を設定し、議論に必要な情報を収集・整理する。 ②ディスカッションに必要な態度・マナー及び生産性・創造性を高める基本スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	14. ディスカッション ①成果発表(2) 議論に必要な基本情報を提示し、論点を整理する。 ②議論する。 ③他のゼミ生と互いのディスカッションを検討しながら、より良いディスカッションについて議論する。
授業計画 【第15回】	15. 1年次の学びの総括 1年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	1. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	(解説前) 次回の解説範囲の資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外学習【復習】	(解説後) 学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 学習技術研究会 編著「知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-(第3版)」 (くろしお出版、¥1800+税) 2. 山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」 (山形大学出版会、¥800+税) 3. 藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために」
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育入門ゼミ						授業形態		演習	
科目コード	750112	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	吉田 健								ICT活 用	○
授業概要	本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を習得することにある。 大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとするを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目指す。									
関連する科目	子ども教育プレゼミを次年度に履修すること。									
授業の進め方 と方法	・入学前課題の発表により学びの課題を把握し、基礎的な読解を行った後に、ゼミごとに調査テーマを設定し、テーマにそって、文章表現（レポート作成）、情報収集、プレゼンテーションを行う。 ・基本的には、領域ごとに〔個別ゼミ〕→〔全体もしくは合同ゼミ〕（前半：各ゼミでの活動、後半：全体での解説や演習）の流れとし、学生が経験しながら学びを深めることを目指す。									
授業計画 【第1回】	1. 学生生活（１） オリエンテーション、学生生活指導、履修指導、「大学で学ぶ」ための学修技術について									
授業計画 【第2回】	2. 学生生活（２） 入学前課題レポートをもとにしたディスカッションを行う。									
授業計画 【第3回】	3. 読解(1) ①読解の意義について理解する。 ②専門的な文献(入門書レベル)の読解スキルについて理解する。									
授業計画 【第4回】	4. 読解(2) ①課題となった文献を要約し、発表する。 ②自身の文献の読み取りについて指導を受け、問題点と改善点を把握する。									
授業計画 【第5回】	5. 文章表現(1) ①アカデミック・ライティングの基本スキル、レポート作成手順と論文作法を理解する。 ②自身が作成したレポートについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。									
授業計画 【第6回】	6. 文章表現(2) ①アカデミック・ライティングの基本スキル、レポート作成手順と論文作法を再度確認する。 ②他のゼミの学生のレポートを検討しながら、より良いレポートについて議論する。									
授業計画 【第7回】	7. 情報収集 ①情報収集の必要性や資料の種類や分類について理解する。 ②大学図書館やインターネットを使った情報収集の基本スキルを理解する。									
授業計画 【第8回】	8. 学生生活(3) 夏休み後、後期に向けての学生生活指導、履修指導									
授業計画 【第9回】	9. 情報収集(1) ①他の学生の文献リストを検討しながら、より良い情報収集・整理について議論する。 ②課題となった文献リストの作成について指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。 ③プレゼンテーションのアウトラインを作成し、役割分担を行う。									
授業計画 【第10回】	10. 卒業中間発表会 ①少なくとも三つのゼミの卒業研究中間発表会に参加し、各々の発表のResearch Questionを掴む。 ②他のゼミ生と感想を交流しながら、問題意識の醸成に向けた議論を行う。									

授業計画 【第11回】	11. プレゼンテーション(1) ①プレゼンテーションの種類と特徴を知り、それらを作成する基本スキルを理解する。 ②自身が作成したプレゼンテーションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。 ③受けた指導をもとに、ゼミで一つのプレゼンテーションにまとめる。
授業計画 【第12回】	12. プレゼンテーション(2) ①成果発表(1) ゼミプレゼンテーションを行う。 ②他のゼミのプレゼンテーションを検討しながら、より良いプレゼンテーションについて議論する。 ③発表内容について、質疑応答を行う。
授業計画 【第13回】	13. ディスカッション(1) ①ディスカッションテーマと論点を設定し、議論に必要な情報を収集・整理する。 ②ディスカッションに必要な態度・マナー及び生産性・創造性を高める基本スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	14. ディスカッション(2) ①成果発表(2) 議論に必要な基本情報を提示し、論点を整理する。 ②議論する。 ③他のゼミ生と互いのディスカッションを検討しながら、より良いディスカッションについて議論する。
授業計画 【第15回】	15. 1年次の学びの総括 1年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	1. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	(解説前) 次回の解説範囲の資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。(1時間程度)
授業時間外学習【復習】	(解説後) 学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。(1時間程度)
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する(30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する(各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する(各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 学習技術研究会 編著「知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-(第3版)」 (くろしお出版、¥1800+税) 2. 山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」 (山形大学出版会、¥800+税) 3. 藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために」
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育入門ゼミ						授業形態		演習	
科目コード	750112	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	後藤 吉道								ICT活 用	○
授業概要	本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を得得することにある。 大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとするを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。									
関連する科目	子ども教育プレゼミを次年度に履修すること。									
授業の進め方 と方法	・入学前課題の発表により学びの課題を把握し、基礎的な読解を行った後に、ゼミごとに調査テーマを設定し、テーマにそって、文章表現（レポート作成）、情報収集、プレゼンテーションを行う。 ・基本的には、領域ごとに〔個別ゼミ〕→〔全体もしくは合同ゼミ〕（前半：各ゼミでの活動、後半：全体での解説や演習）の流れとし、学生が経験しながら学びを深めることを目指す。									
授業計画 【第1回】	1. 学生生活 オリエンテーション、学生生活指導、履修指導									
授業計画 【第2回】	2. 学生生活 入学前課題レポートをもとにしたディスカッション									
授業計画 【第3回】	3. 読解 ①読解の意義について理解する。 ②専門的な文献（入門書レベル）の読解スキルについて理解する。									
授業計画 【第4回】	4. 読解 ①課題となった文献を要約し、発表する。 ②自身の文献の読み取りについて指導を受け、問題点と改善点を把握する。									
授業計画 【第5回】	5. 文章表現 ①アカデミック・ライティングの基本スキル、レポート作成手順と論文作法を理解する。 ②自身が作成したレポートについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。									
授業計画 【第6回】	6. 文章表現 ①アカデミック・ライティングの基本スキル、レポート作成手順と論文作法を再度確認する。 ②他のゼミの学生のレポートを検討しながら、より良いレポートについて議論する。									
授業計画 【第7回】	7. 情報収集 ①情報収集の必要性や資料の種類や分類について理解する。 ②大学図書館やインターネットを使った情報収集の基本スキルを理解する。									
授業計画 【第8回】	8. 学生生活 学生生活指導、履修指導									
授業計画 【第9回】	9. 情報収集 ①他の学生の文献リストを検討しながら、より良い情報収集・整理について議論する。 ②課題となった文献リストの作成について指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。 ③プレゼンテーションのアウトラインを作成し、役割分担を行う。									
授業計画 【第10回】	10. 卒業中間発表会 ①少なくとも三つのゼミの卒業研究中間発表会に参加し、各々の発表のResearch Questionを掴む。 ②他のゼミ生と感想を交流しながら、問題意識の醸成に向けた議論を行う。									

授業計画 【第11回】	11. プレゼンテーション ①プレゼンテーションの種類と特徴を知り、それらを作成する基本スキルを理解する。 ②自身が作成したプレゼンテーションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。 ③受けた指導をもとに、ゼミで一つのプレゼンテーションにまとめる。
授業計画 【第12回】	12. プレゼンテーション ①成果発表(1) ゼミプレゼンテーションを行う。 ②他のゼミのプレゼンテーションを検討しながら、より良いプレゼンテーションについて議論する。 ③発表内容について、質疑応答を行う。
授業計画 【第13回】	第13回口 13. ディスカッション ①ディスカッションテーマと論点を設定し、議論に必要な情報を収集・整理する。 ②ディスカッションに必要な態度・マナー及び生産性・創造性を高める基本スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	14. ディスカッション ①成果発表(2) 議論に必要な基本情報を提示し、論点を整理する。 ②議論する。 ③他のゼミ生と互いのディスカッションを検討しながら、より良いディスカッションについて議論する。
授業計画 【第15回】	15. 1年次の学びの総括 1年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	1. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	(解説前) 次回の解説範囲の資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外学習【復習】	(解説後) 学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	指示があつたさいに購入 1. 学習技術研究会 編著「知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ- (第5版)」 (くろしお出版、¥1800+税) 2. 山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」 (山形大学出版会 ¥800+税)
備考	なし

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育入門ゼミ						授業形態		演習	
科目コード	750112	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	早川 純子								ICT活 用	
授業概要	本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を習得することにある。 大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとするを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目指す。									
関連する科目	子ども教育プレゼミを次年度に履修すること。									
授業の進め方 と方法	・入学前課題の発表により学びの課題を把握し、基礎的な読解を行った後に、ゼミごとに調査テーマを設定し、テーマにそって、文章表現（レポート作成）、情報収集、プレゼンテーションを行う。 ・基本的には、領域ごとに〔個別ゼミ〕→〔全体もしくは合同ゼミ〕（前半：各ゼミでの活動、後半：全体での解説や演習）の流れとし、学生が経験しながら学びを深めることを目指す。									
授業計画 【第1回】	1. 学生生活 オリエンテーション、学生生活指導、履修指導									
授業計画 【第2回】	2. 学生生活 入学前課題レポートをもとにしたディスカッション									
授業計画 【第3回】	3. 読解 ①読解の意義について理解する。 ②専門的な文献（入門書レベル）の読解スキルについて理解する。									
授業計画 【第4回】	4. 読解 ①課題となった文献を要約し、発表する。 ②自身の文献の読み取りについて指導を受け、問題点と改善点を把握する。									
授業計画 【第5回】	5. 文章表現 ①アカデミック・ライティングの基本スキル、レポート作成手順と論文作法を理解する。 ②自身が作成したレポートについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。									
授業計画 【第6回】	6. 文章表現 ①アカデミック・ライティングの基本スキル、レポート作成手順と論文作法を再度確認する。 ②他のゼミの学生のレポートを検討しながら、より良いレポートについて議論する。									
授業計画 【第7回】	7. 情報収集 ①情報収集の必要性や資料の種類や分類について理解する。 ②大学図書館やインターネットを使った情報収集の基本スキルを理解する。									
授業計画 【第8回】	8. 学生生活 学生生活指導、履修指導									
授業計画 【第9回】	9. 情報収集 ①他の学生の文献リストを検討しながら、より良い情報収集・整理について議論する。 ②課題となった文献リストの作成について指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。 ③プレゼンテーションのアウトラインを作成し、役割分担を行う。									
授業計画 【第10回】	10. 卒業中間発表会 ①少なくとも三つのゼミの卒業研究中間発表会に参加し、各々の発表のResearch Questionを掴む。 ②他のゼミ生と感想を交流しながら、問題意識の醸成に向けた議論を行う。									

授業計画 【第11回】	11. プレゼンテーション ①プレゼンテーションの種類と特徴を知り、それらを作成する基本スキルを理解する。 ②自身が作成したプレゼンテーションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。 ③受けた指導をもとに、ゼミで一つのプレゼンテーションにまとめる。
授業計画 【第12回】	12. プレゼンテーション ①成果発表(1) ゼミプレゼンテーションを行う。 ②他のゼミのプレゼンテーションを検討しながら、より良いプレゼンテーションについて議論する。 ③発表内容について、質疑応答を行う。
授業計画 【第13回】	13. ディスカッション ①ディスカッションテーマと論点を設定し、議論に必要な情報を収集・整理する。 ②ディスカッションに必要な態度・マナー及び生産性・創造性を高める基本スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	14. ディスカッション ①成果発表(2) 議論に必要な基本情報を提示し、論点を整理する。 ②議論する。 ③他のゼミ生と互いのディスカッションを検討しながら、より良いディスカッションについて議論する。
授業計画 【第15回】	15. 1年次の学びの総括 1年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	1. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	(解説前) 次回の解説範囲の資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外学習【復習】	(解説後) 学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 学習技術研究会 編著「知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-(第3版)」 (くろしお出版、¥1800+税) 2. 山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」 (山形大学出版会、¥800+税) 3. 藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために」
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育入門ゼミ						授業形態		演習	
科目コード	750112	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	遠藤 晃								ICT活 用	○
授業概要	本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を習得することにある。 大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとするを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。 なお、前期は並行して開講される「アカデミックスキル」と往還しながら学習技術を高めていく。									
関連する科目	「アカデミックスキル」と往還しながら学びを深める 「子ども教育プレゼミ」を次年度に履修すること。									
授業の進め方 と方法	・入学前課題の発表により学びの課題を把握し、基礎的な読解を行った後に、ゼミごとに調査テーマを設定し、テーマにそって、文章表現（レポート作成）、情報収集、プレゼンテーションを行う。 ・「アカデミックスキル」と往還しながら、研究構造の理解、課題設定、調査、結果と考察、表現（プレゼンテーションと言語化）と学生が経験しながら段階的に学びを深めることを目指す。									
授業計画 【第1回】	第1回 学生生活1（個別ゼミ） オリエンテーション、学生生活指導、履修指導									
授業計画 【第2回】	第2回 学生生活2（個別ゼミ） 学生生活指導、履修指導									
授業計画 【第3回】	第3回 レポートとは（個別ゼミ） ①入学前課題レポートの共有 ②レポートを書く目的と構成									
授業計画 【第4回】	第4回 テーマ設定（個別ゼミ） ①探究（研究）課題の立て方									
授業計画 【第5回】	第5回 探究課題設定1（個別ゼミ） ①探究（研究）課題設定：ゼミのテーマに沿って自分の興味に基づいた自分の探究課題を設定 ②課題設定の理由（調べたい動機）を明確にし、文章にまとめて表現する									
授業計画 【第6回】	第6回 探究課題設定2（個別ゼミ） ①探究課題を設定した理由（主観から客観へ） ②探究課題に関する現状把握の方法：情報収集の戦略（適切なキーワードなど）、文献の決定									
授業計画 【第7回】	第7回 レポートの完成（全体ゼミ） ①レポートを発表する ②自身が作成したレポートについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。									
授業計画 【第8回】	第8回 学生生活3（個別ゼミ） 学生生活指導、履修指導									
授業計画 【第9回】	第9回 個別プレゼンテーション（個別ゼミ） ①ゼミメンバーに対してプレゼンテーションを発表する ②卒論中間発表会参加の準備：研究の背景、Research Question、方法の構成を理解する									
授業計画 【第10回】	第10回 卒業研究中間発表会 ①少なくとも三つのゼミの卒業研究中間発表会に参加し、各々の発表のResearch Questionを掴む。									

授業計画 【第11回】	第11回 ゼミ・プレゼンテーション1（個別ゼミ） ①ゼミメンバーのプレゼンテーションを集めてストーリーを構想する ②ストーリーをゼミのプレゼンテーションとしてまとめ、不足している情報をみつける
授業計画 【第12回】	第12回 ゼミ・プレゼンテーション2（個別ゼミ） ①不足している情報を加えてゼミのプレゼンテーションを完成させる ②発表の練習をする
授業計画 【第13回】	第13回 ゼミ・プレゼンテーション3（合同ゼミ） ①成果発表 共同プレゼンテーションを行う。 ②それぞれのプレゼンテーションを具体的事例として（自分のゼミのプレゼンも含む）、より良いプレゼンテーションについてまとめる
授業計画 【第14回】	第14回 ディスカッション（個別ゼミ） ①作成したレポートをもとにゼミ生とディスカッションをしながら、より良いプレゼンテーションについて考える。 ②①をもとにして、より良いプレゼンテーションにブラッシュアップする。
授業計画 【第15回】	第15回 1年次の学びの総括（個別ゼミ） 1年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	1. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
学位授与の方針 （DP）との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-（2）／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-（1）／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-（2）／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-（2）／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-（5）
授業時間外学習【予習】	1時間程度 （解説前） 次回の解説範囲の資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 （実践指導前） 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外学習【復習】	1時間程度 （解説後） 学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 （実践指導後） 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	（オリエンテーション等）提出物及び受講態度から判断する（30点） （解説）出席時のミニレポートや提出物から判断する（各回4点×5回＝20点） （実践指導）課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する（各回10点×5回＝50点）
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 学習技術研究会 編著「知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-（第5版）」 （くろしお出版、¥1800＋税） 2. 山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」 （山形大学出版会、¥800＋税） 3. 藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために」
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度		開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科			
科目名称	子ども教育入門ゼミ							授業形態		演習		
科目コード	750112	単位数	2単位		配当学年	1		実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	藤本 朋美										ICT活 用	○
授業概要	本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を習得することにある。 大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとするを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。											
関連する科目	子ども教育プレゼミを次年度に履修すること。											
授業の進め方 と方法	・入学前課題の発表により学びの課題を把握し、基礎的な読解を行った後に、ゼミごとに調査テーマを設定し、テーマにそって、文章表現（レポート作成）、情報収集、プレゼンテーションを行う。 ・基本的には、領域ごとに〔個別ゼミ〕→〔全体もしくは合同ゼミ〕（前半：各ゼミでの活動、後半：全体での解説や演習）の流れとし、学生が経験しながら学びを深めることを目指す。											
授業計画 【第1回】	1. 学生生活 オリエンテーション、学生生活指導、履修指導											
授業計画 【第2回】	2. 学生生活 入学前課題レポートをもとにしたディスカッション											
授業計画 【第3回】	3. 読解 ①読解の意義について理解する。 ②専門的な文献（入門書レベル）の読解スキルについて理解する。											
授業計画 【第4回】	4. 読解 ①課題となった文献を要約し、発表する。 ②自身の文献の読み取りについて指導を受け、問題点と改善点を把握する。											
授業計画 【第5回】	5. 文章表現 ①アカデミック・ライティングの基本スキル、レポート作成手順と論文作法を理解する。 ②自身が作成したレポートについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。											
授業計画 【第6回】	6. 文章表現 ①アカデミック・ライティングの基本スキル、レポート作成手順と論文作法を再度確認する。 ②他のゼミの学生のレポートを検討しながら、より良いレポートについて議論する。											
授業計画 【第7回】	7. 情報収集 ①情報収集の必要性や資料の種類や分類について理解する。 ②大学図書館やインターネットを使った情報収集の基本スキルを理解する。											
授業計画 【第8回】	8. 学生生活 学生生活指導、履修指導											
授業計画 【第9回】	9. 情報収集 ①他の学生の文献リストを検討しながら、より良い情報収集・整理について議論する。 ②課題となった文献リストの作成について指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。 ③プレゼンテーションのアウトラインを作成し、役割分担を行う。											
授業計画 【第10回】	10. 卒業中間発表会 ①少なくとも三つのゼミの卒業研究中間発表会に参加し、各々の発表のResearch Questionを掴む。 ②他のゼミ生と感想を交流しながら、問題意識の醸成に向けた議論を行う。											

授業計画 【第11回】	11. プレゼンテーション ①プレゼンテーションの種類と特徴を知り、それらを作成する基本スキルを理解する。 ②自身が作成したプレゼンテーションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。 ③受けた指導をもとに、ゼミで一つのプレゼンテーションにまとめる。
授業計画 【第12回】	12. プレゼンテーション ①成果発表(1) ゼミプレゼンテーションを行う。 ②他のゼミのプレゼンテーションを検討しながら、より良いプレゼンテーションについて議論する。 ③発表内容について、質疑応答を行う。
授業計画 【第13回】	13. ディスカッション ①ディスカッションテーマと論点を設定し、議論に必要な情報を収集・整理する。 ②ディスカッションに必要な態度・マナー及び生産性・創造性を高める基本スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	14. ディスカッション ①成果発表(2) 議論に必要な基本情報を提示し、論点を整理する。 ②議論する。 ③他のゼミ生と互いのディスカッションを検討しながら、より良いディスカッションについて議論する。
授業計画 【第15回】	15. 1年次の学びの総括 1年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	1. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	(解説前) 次回の解説範囲の資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外学習【復習】	(解説後) 学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 学修技術研究会 編著「知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-(第3版)」 (くろしお出版、¥1800+税) 2. 山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」 (山形大学出版会、¥800+税) 3. 藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために」
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育入門ゼミ						授業形態		講義	
科目コード	750112	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	神垣 彬子								ICT活 用	○
授業概要	本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を得得することにある。 大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとするを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。									
関連する科目	子ども教育プレゼミを次年度に履修する。									
授業の進め方 と方法	・入学前課題の発表により学びの課題を把握し、基礎的な読解を行った後に、ゼミごとに調査テーマを設定し、テーマにそって、文章表現（レポート作成）、情報収集、プレゼンテーションを行う。 ・基本的には、領域ごとに〔個別ゼミ〕→〔全体もしくは合同ゼミ〕（前半：各ゼミでの活動、後半：全体での解説や演習）の流れとし、学生が経験しながら学びを深めることを目指す。									
授業計画 【第1回】	第1回 1. 学生生活 オリエンテーション、学生生活指導、履修指導									
授業計画 【第2回】	第2回 入学前課題レポートをもとにしたディスカッション									
授業計画 【第3回】	第3回 3. 読解 ①読解の意義について理解する。 ②専門的な文献(入門書レベル)の読解スキルについて理解する。									
授業計画 【第4回】	第4回 4. 読解 ①課題となった文献を要約し、発表する。 ②自身の文献の読み取りについて指導を受け、問題点と改善点を把握する。									
授業計画 【第5回】	第5回 5. 文章表現 ①アカデミック・ライティングの基本スキル、レポート作成手順と論文作法を理解する。 ②自身が作成したレポートについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。									
授業計画 【第6回】	第6回 6. 文章表現 ①アカデミック・ライティングの基本スキル、レポート作成手順と論文作法を再度確認する。 ②他のゼミの学生のレポートを検討しながら、より良いレポートについて議論する。									
授業計画 【第7回】	第7回 7. 情報収集 ①情報収集の必要性や資料の種類や分類について理解する。 ②大学図書館やインターネットを使った情報収集の基本スキルを理解する。									
授業計画 【第8回】	第8回 8. 学生生活 学生生活指導、履修指導									
授業計画 【第9回】	第9回 9. 情報収集 ①他の学生の文献リストを検討しながら、より良い情報収集・整理について議論する。 ②課題となった文献リストの作成について指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。 ③プレゼンテーションのアウトラインを作成し、役割分担を行う。									
授業計画 【第10回】	第10回 10. 卒業中間発表会 ①少なくとも三つのゼミの卒業研究中間発表会に参加し、各々の発表のResearch Questionを掴む。 ②他のゼミ生と感想を交流しながら、問題意識の醸成に向けた議論を行う。									

授業計画 【第11回】	第11回 11. プレゼンテーション ①プレゼンテーションの種類と特徴を知り、それらを作成する基本スキルを理解する。 ②自身が作成したプレゼンテーションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。 ③受けた指導をもとに、ゼミで一つのプレゼンテーションにまとめる。
授業計画 【第12回】	第12回 12. プレゼンテーション ①成果発表(1) ゼミプレゼンテーションを行う。 ②他のゼミのプレゼンテーションを検討しながら、より良いプレゼンテーションについて議論する。 ③発表内容について、質疑応答を行う。
授業計画 【第13回】	第13回 13. ディスカッション ①ディスカッションテーマと論点を設定し、議論に必要な情報を収集・整理する。 ②ディスカッションに必要な態度・マナー及び生産性・創造性を高める基本スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	第14回 14. ディスカッション ①成果発表(2) 議論に必要な基本情報を提示し、論点を整理する。 ②議論する。 ③他のゼミ生と互いのディスカッションを検討しながら、より良いディスカッションについて議論する。
授業計画 【第15回】	第15回 15. 1年次の学びの総括 1年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	1. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外学習【予習】	(解説前) 次回の解説範囲の資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること(30分程度)。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと(30分程度)。
授業時間外学習【復習】	(解説後) 学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること(30分程度)。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと(30分程度)。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する(30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する(各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する(各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 学習技術研究会 編著「知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-(第5版)」 (くろしお出版、¥1800+税) 2. 山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」 (山形大学出版会、¥800+税) 3. 藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 衣食」た大学生生活を送るために」
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育入門ゼミ						授業形態		演習	
科目コード	750112	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	西田 雅美								ICT活 用	○
授業概要	本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を習得することにある。 大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとすることを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。 なお、前期は並行して開講される「アカデミックスキル」と往還しながら学習技術を高めていく。									
関連する科目	「アカデミックスキル」と往還しながら学びを深める 「子ども教育プレゼミ」を次年度に履修すること。									
授業の進め方 と方法	・入学前課題の発表により学びの課題を把握し、基礎的な読解を行った後に、ゼミごとに調査テーマを設定し、テーマにそって、文章表現（レポート作成）、情報収集、プレゼンテーションを行う。 ・「アカデミックスキル」と往還しながら、研究構造の理解、課題設定、調査、結果と考察、表現（プレゼンテーションと言語化）と学生が経験しながら段階的に学びを深めることを目指す。									
授業計画 【第1回】	第1回 学生生活1（個別ゼミ） オリエンテーション、学生生活指導、履修指導									
授業計画 【第2回】	第2回 学生生活2（個別ゼミ） 学生生活指導、履修指導									
授業計画 【第3回】	第3回 レポートとは（個別ゼミ） ①入学前課題レポートの共有 ②レポートを書く目的と構成									
授業計画 【第4回】	第4回 テーマ設定（個別ゼミ） ①探究（研究）課題の立て方									
授業計画 【第5回】	第5回 探究課題設定1（個別ゼミ） ①探究（研究）課題設定：ゼミのテーマに沿って自分の興味に基づいた自分の探究課題を設定 ②課題設定の理由（調べたい動機）を明確にし、文章にまとめて表現する									
授業計画 【第6回】	第6回 探究課題設定2（個別ゼミ） ①探究課題を設定した理由（主観から客観へ） ②探究課題に関する現状把握の方法：情報収集の戦略（適切なキーワードなど）、文献の決定									
授業計画 【第7回】	第7回 レポートの完成（全体ゼミ） ①レポートを発表する ②自身が作成したレポートについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。									
授業計画 【第8回】	第8回 学生生活3（個別ゼミ） 学生生活指導、履修指導									
授業計画 【第9回】	第9回 個別プレゼンテーション（個別ゼミ） ①ゼミメンバーに対してプレゼンテーションを発表する ②卒論中間発表会参加の準備：研究の背景、Research Question、方法の構成を理解する									
授業計画 【第10回】	第10回 卒業研究中間発表会 ①少なくとも三つのゼミの卒業研究中間発表会に参加し、各々の発表のResearch Questionを掴む。									

授業計画 【第11回】	第11回 ゼミ・プレゼンテーション1（個別ゼミ） ①ゼミメンバーのプレゼンテーションを集めてストーリーを構想する ②ストーリーをゼミのプレゼンテーションとしてまとめ、不足している情報をみつける
授業計画 【第12回】	第12回 ゼミ・プレゼンテーション2（個別ゼミ） ①不足している情報を加えてゼミのプレゼンテーションを完成させる ②発表の練習をする
授業計画 【第13回】	第13回 ゼミ・プレゼンテーション3（合同ゼミ） ①成果発表 共同プレゼンテーションを行う。 ②それぞれのプレゼンテーションを具体的事例として（自分のゼミのプレゼンも含む）、より良いプレゼンテーションについてまとめる
授業計画 【第14回】	第14回 ディスカッション（個別ゼミ） ①作成したレポートをもとにゼミ生とディスカッションをしながら、より良いプレゼンテーションについて考える。 ②①をもとにして、より良いプレゼンテーションにブラッシュアップする。
授業計画 【第15回】	第15回 1年次の学びの総括（個別ゼミ） 1年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	1. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
学位授与の方針 （DP）との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	（解説前） 次回の解説範囲の資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 （実践指導前） 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外学習【復習】	（解説後） 学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 （実践指導後） 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	（オリエンテーション等） 提出物及び受講態度から判断する（30点） （解説） 出席時のミニレポートや提出物から判断する（各回4点×5回＝20点） （実践指導） 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する（各回10点×5回＝50点）
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 学習技術研究会 編著「知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-（第5版）」 （くろしお出版、¥1800＋税） 2. 山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」 （山形大学出版会、¥800＋税） 3. 藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 衣食」た大学生生活を送るために」
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育入門ゼミ						授業形態		演習	
科目コード	750112	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	石本 隆士								ICT活 用	
授業概要	本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を得得することにあります。 大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化します。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートの提出を課されても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易いものです。 「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要です。本科目によりそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとなります。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とします。									
関連する科目	子ども教育プレゼミを次年度に履修すること。									
授業の進め方 と方法	入学前課題の発表により学びの課題を把握し、基礎的な読解を行った後に、ゼミごとに調査テーマを設定し、テーマにそって、文章表現（レポート作成）、情報収集、プレゼンテーションを行います。 基本的には、領域ごとに〔個別ゼミ〕→〔全体もしくは合同ゼミ〕（前半：各ゼミでの活動、後半：全体での解説や演習）の流れとし、学生が経験しながら学びを深めることを目指します。									
授業計画 【第1回】	1. 学生生活 オリエンテーション、学生生活指導、履修指導									
授業計画 【第2回】	2. 学生生活 入学前課題レポートをもとにしたディスカッション									
授業計画 【第3回】	3. 読解 ①読解の意義について理解します。 ②専門的な文献（入門書レベル）の読解スキルについて理解します。									
授業計画 【第4回】	4. 読解 ①課題となった文献を要約し、発表します。 ②自身の文献の読み取りについて指導を受け、問題点と改善点を把握します。									
授業計画 【第5回】	5. 文章表現 ①アカデミック・ライティングの基本スキル、レポート作成手順と論文作法を理解します。 ②自身が作成したレポートについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴みます。									
授業計画 【第6回】	6. 文章表現 ①アカデミック・ライティングの基本スキル、レポート作成手順と論文作法を再度確認します。 ②他のゼミの学生のレポートを検討しながら、より良いレポートについて議論します。									
授業計画 【第7回】	7. 情報収集 ①情報収集の必要性や資料の種類や分類について理解します。 ②大学図書館やインターネットを使った情報収集の基本スキルを理解します。									
授業計画 【第8回】	8. 学生生活 学生生活指導、履修指導									
授業計画 【第9回】	9. 情報収集 ①他の学生の文献リストを検討しながら、より良い情報収集・整理について議論します。 ②課題となった文献リストの作成について指導を受け、課題と改善への見通しを掴みます。 ③プレゼンテーションのアウトラインを作成し、役割分担を行います。									
授業計画 【第10回】	10. 卒業中間発表会 ①少なくとも三つのゼミの卒業研究中間発表会に参加し、各々の発表のResearch Questionを掴みます。 ②他のゼミ生と感想を交流しながら、問題意識の醸成に向けた議論を行います。									

授業計画 【第11回】	11. プレゼンテーション ①プレゼンテーションの種類と特徴を知り、それらを作成する基本スキルを理解します。 ②自身が作成したプレゼンテーションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴みます。 ③受けた指導をもとに、ゼミで一つのプレゼンテーションにまとめます。
授業計画 【第12回】	12. プレゼンテーション ①成果発表(1) ゼミプレゼンテーションを行います。 ②他のゼミのプレゼンテーションを検討しながら、より良いプレゼンテーションについて議論します。 ③発表内容について、質疑応答を行います。
授業計画 【第13回】	13. ディスカッション ①ディスカッションテーマと論点を設定し、議論に必要な情報を収集・整理します。 ②ディスカッションに必要な態度・マナー及び生産性・創造性を高める基本スキルを理解します。
授業計画 【第14回】	14. ディスカッション ①成果発表(2) 議論に必要な基本情報を提示し、論点を整理します。 ②論点を意識しながら議論します。 ③他のゼミ生と互いのディスカッションを検討しながら、より良いディスカッションについて議論します。
授業計画 【第15回】	15. 1年次の学びの総括 1年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論します。
授業の到達目標	1. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	(解説前) 次回の解説範囲の資料を熟読し、学修内容の概略を把握してください。(1時間程度) (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行います。(1時間程度)
授業時間外学習【復習】	(解説後) 学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用してください。(1時間程度) (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組んでください。(1時間程度)
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行います。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断します。(30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断します。(各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断します。(各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布します。
参考書	1. 学習技術研究会 編著「知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-(第5版)」 (くろしお出版、¥1800+税) 2. 山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」 (山形大学出版会、¥800+税) 3. 藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために」
備考	